

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	木寺 法子
所属機関名	生物地球学部 生物地球学科
職位	准教授
在籍年	6 年

教育の責任

生物地球学部生物地球学科に 2018 年度より着任し、生物学系の専門科目を主に 3 つ（生物科学概論Ⅰ、自然史研究法、島嶼生物学）受け持っている。また、オムニバス講義を 1 つ（生物地球概論Ⅰ）担当している。通年の実習として 5 つの実習（野外調査法実習Ⅰ、野外調査法実習Ⅱ、生物学実習、動物学実習、野外博物館実習）を他の教員と分担で受け持っている。毎年 8-9 名程度のゼミ生を受け持ち、爬虫類・両棲類を対象とした生態学・行動学・保全生物学といった分野の卒業研究の指導に携わっている。

教育の理念

生物地球学科は生物学・地球科学・天文学・地理学・考古学・古生物学に係わる幅広い学際的な分野を体系的に習得することにより、現代社会の諸問題の解決に貢献できる判断力と実行力をもつ人材を養成することを教育目標としている。この目標を達成するため、わたしは担当する生物学分野の講義・実習、さらに卒業研究の指導を通して、専門知識を身につけつつも幅広い視野と多角的な視点を有する人材を育成することを目指している。また、大学における学びは知識の習得にとどまらず、学びを通して自身の考えや意見を構築することが重要であると考ええる。

教育の方法・方針

方法：

- A) フィールドワークや経験からの学びを重視した実習を実施している。具体例としては、調査者の視覚だけでなく、聴覚・触覚を使った野外調査方法を教示している。講義ではわかりやすい補助資料の作成を心がけている。例えば、スライドにその日の講義のポイントやノートしておく振り返りに役立つ事項が一目でわかる様、ノートマークを付与している。また、生物学分野の事象に関連する写真や動画を積極的にとりいれている。
- B) 学生が考える機会を積極的に講義の中で設けている。具体的には、講義中の問いかけ、また講義後に振り返りメモとして感想等を書いてもらうことで、学生自身の考えを導き出す機会を設けている。研究セミナーでは発表者だけでなく、聴講者にも発言機会を強いている。1 つの発表内容に対し聴講者は 1 人 1 回質問することをルールとしている。

方針：

- A) 主体的な学びによる知識の会得・定着度の向上を目指す。
- B) 生物学分野の知識を教授するだけでなく、分野における課題について学生が自身の考えや意見を持つこと、それを人に説明することができるようになることを目標とする。特に、根拠を示し意見を述べる、論理立てて説明する技術を習得できるよう努める。

教育の成果

- 近年 3 年間の担当講義（生物科学概論Ⅰ、島嶼生物学）授業アンケートにおける総合評価において「満足・ほぼ満足」の合計は 83-97%であり、非常に高い満足度が得られている。自由記述欄では「スライドがみやすかった」「ノートマークのおかげで授業のポイントが理解しやすかった」といったコメントも複数あり、スライドの工夫に対する一定の効果がみられる。
- セミナーにおける聴講者質問必須ルールに関しては、成果がでるまでに時間を要する。春期には仕方なく質問している感が否めないが、セミナーの継続実施により秋季になるとし

っかりと内容を理解した上での質問へと変化し、発表内容に対する鋭い質問が明らかに増える。また、コース・学科内で実施される中間発表会や卒論発表会でも、萎縮することなく同学年の学生の発表に対して主体的に質問することができる様になっている。 ● 卒論生による学会発表も少なくなく、これまでに7名のゼミ生が日本爬虫両棲類学会の年次大会で卒論研究の発表をおこなった。今年度の1名は口頭発表するにいたった。
今後の目標
なぜ、どうしてもと感じることは主体的な学びの第一歩と考える。科学的情操教育を提供できるよう講義・実習の工夫をおこないたい。また、教育成果のエビデンスとなる授業アンケートの回収率が講義によっては非常に低い。今後は回答率をあげるよう努めたい。
根拠資料
2022~2024 生物科学概論 I 授業アンケート結果 2022~2024 島嶼生物学 授業アンケート結果 日本爬虫両棲類学会第63回大会講演要旨